

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年3月16日現在
(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

暖冬の影響により、11月下旬播きの生育は8～9葉期で、**平年より2～3週間程度早いです**。出穂期は、11月下旬播きで平年より2～3週間程度早く3月下旬頃と予想されます。一部の早播きでは出穂しており、晩霜により不稔の発生が懸念されます。排水口の手入れや枕地作溝、溝さらえ等の排水対策を徹底しましょう。

「ラー麦(ちくしW2号)」「ミナミノカオリ」は、穂揃い期追肥の準備を行います。葉色が淡いほ場は、基準量より窒素1～2kg/10a増量します(尿素の葉面散布は除く)。赤かび病の対策は、小麦とはだか麦では開花期、大麦では葎殻抽出期に実施しましょう。赤かび病に弱い品種や多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度実施します。特に、不稔を生じたほ場は、赤かび病が発生しやすいため、注意してください。

◇アスパラガス◇

保温開始は1月中旬～2月上旬頃で、**平年並～10日程遅い**です。出荷開始は、若年生株で1月中旬頃、多年生株では保温開始後の萌芽がやや鈍く2月上旬以降に遅れました。春芽はやや細い傾向です。数量は徐々に増加し**春芽の出荷最盛期は2月下旬～3月上旬頃**となりました。立茎はやや早めに開始されています。出荷量の減少や生産物の太さ等で総合的に判断し、遅れないようにしましょう。ハウスの温度管理は、日中の30℃を超えないようにしましょう。アザミウマ類の発生が一部でみられます。病害虫対策を徹底しましょう。

◇冬春ナス◇

2月下旬に出荷量が増加しましたが、大きな山にはならず、**現在、出荷量は少ない**です。そのため、**草勢は良い状態を維持**しており、開花～肥大初期の果実が多く、芽の吹き、**果実品質ともに良好**です。**4月中旬以降、出荷量が増加する見込み**です。出荷量が増加すると手入れが間に合わなくなってくるため、摘葉や芽の整理を行っておきます。温度上昇に合わせて、かん水や追肥の回数を増やしましょう。

高夜温により暖房機の稼働時間が少ないため、灰色かび病や軟腐病の発生が多いです。天敵利用によりアザミウマ類の発生は少ないですが、コナジラミ類が増加傾向です。換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等により病害対策を行いましょう。

◇イチジク◇

12月下旬加温の「とよみつひめ」は、展葉10～12枚前後で果実肥大期です。加温ハウスでは生育が昨年並みに前進化しています。夜間は15℃前後を確保、日中は30℃以上にならないよう、こまめな温湿度管理を徹底しましょう。

発芽は、無加温ハウスでは3月下旬～4月上旬、露地栽培では4月中下旬頃の見込みです。今後、露地栽培では生育が前進化すると晩霜被害が懸念されます。アルミ蒸着フィルム等で対策しましょう。

◇トルコギョウ◇

1～2月の出荷量は、暖冬の影響で平年に比べて多くなりました。一方、他産地からの入荷や台湾からの輸入量も増加しなかったため、販売単価は平均187円とかなり高くなりました。

春出荷(3～5月)作型の生育は、一部の品種でブラスチングが発生したものの概ね順調です。出荷ピークは**4月上旬から中旬になる見込み**です。

今後、学校行事や各種イベント中止などの影響が懸念されます。品質向上、出荷期の省力化のため、ほ場での芽摘みを徹底しましょう。花の小輪化を防ぐため開花期は夜温を12℃以上で管理します。斑点病、灰色かび病は、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

2月の肉牛枝肉単価は、新型コロナウイルスの発生により、**牛肉消費が急速に悪化したため暴落**しました。外国人観光客が減少し、インバウンド需要は減退、輸出も鈍化しており、今後も厳しい相場展開が予想されます。近隣国では口蹄疫等、国内では豚コレラ等家畜伝染病が発生しているため、飼養衛生管理基準を徹底しましょう。